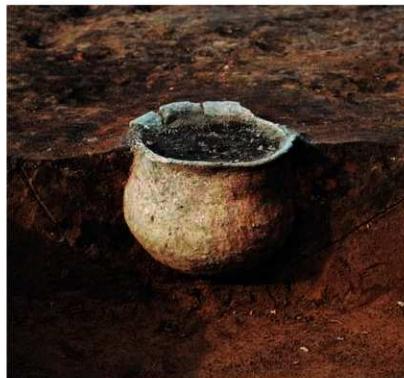


## 町 内 遺 跡 27

平成22年度町内遺跡発掘調査概要報告書  
(陳ヶ迫第2遺跡2次調査)  
(富田村7号墳)



SA18出土埋甌

2 0 1 1 • 3

宮崎県児湯郡・新富町教育委員会

## 序

新富町の文化財保護については日頃から深い御理解をいただき厚く御礼申し上げます。

本年度は陳ヶ迫第2遺跡と富田村7号墳の調査を実施しました。陳ヶ迫第2遺跡は昨年度に引き続き調査を行いました。今年も古墳時代後期の居住址が多数確認され、この地域に大規模な集落があったことが分かりました。本町は古墳時代の遺構が数多く存在する地域であり、とくに古墳時代後期には県内で最大規模の首長墓系列である抵園原古墳群が形成され、まさに日向地方の中心地であります。

本町はこれらの文化財の保護を推進し、学術研究はもとより広く生涯学習の素材として活用していく考えです。

最後になりましたが、調査に際してお世話になった関係各機関の方々に深く感謝を申し上げます。

平成23年3月 新富町教育長 米 良 郁 子

## 例　言

- 1.本書は平成22年度に宮崎県児湯郡新富町教育委員会が実施した緊急発掘調査の概要報告書である。
- 2.発掘調査は、国庫補助事業「町内遺跡発掘調査等」を適用して行った。
- 3.各遺跡の調査期間は本文中の表1に明記した。
- 4.本書で使用した位置図は国土地理院発行の2万5千分の1図を基に作成し、調査範囲図はそれぞれ平板実測にて作成した100分の1、200分の1測量図をもとに作成した。
- 5.本書で使用する方位は座標北（座標第II系）であり、レベルは海拔絶対高である。
- 6.遺構実測は樋渡が行った。
- 7.遺構・遺物の写真は樋渡が撮影した。
- 8.整理作業は樋渡・甲斐が行い、遺物実測及びトレースは樋渡が行った。
- 9.本書の執筆・編集は樋渡がおこなった。
- 10.出土遺物その他の記録はすべて新富町教育委員会生涯学習課に保管してある。

## 本文目次

I.はじめに	1～3ページ
II.陳ヶ迫第2遺跡（2次）調査	4～6ページ
III.富田村古墳の確認調査	7～10ページ
IV.まとめ	11ページ



新富町位置図

# I. はじめに

## 1. 新富町の位置と概要

新富町は宮崎県中央部の日向灘沿岸に位置し、県庁所在地である宮崎市から約20km北にある。北西部から南東部にかけては一つ瀬川が蛇行しつつ東進し、その流域左岸部の沖積平野と標高70~90mの台地面にかけて町域を有する。町面積は南北約7km、東西約9kmの約61km<sup>2</sup>で、隣接する市町村には西に西都市、北に高鍋町、南に宮崎市がある。

主幹産業は酪農や園芸を中心とした農業で、台地の中心部には航空自衛隊新田原基地があるため「やさしいと基地の町」のイメージが強い。人口は約18,000人で、近年は高速道路など道路網の整備が行われている。

## 2. 新富町の文化財保護

町では昭和43年に文化財保護審議委員会を設置し、町内の文化財保護を推進している。指定文化財は国指定2、県指定2、町指定6があり、内訳は史跡2、天然記念物3、無形民俗3、有形文化財2である。

天然記念物には湯之宮座論梅・春日のイチョウ・アカウミガメの3件が指定されている。それぞれ下草管理や徒長枝剪定などを行っている。アカウミガメは列島的な海岸面積の減少に関係してか毎年上陸頭数が少なくなっています。県下一斎の保護対策が求められている。無形民俗文化財には湯之宮棒踊り、元禄坊主踊り、新田神楽がある。各団体の自助努力により活発な活動が行われており、後継者を含めた総合的な支援が求められる。有形文化財には三納代神社の釈迦如来座像と巣島神社の薬師如来立像があり、ほかに保存状態の良くないものや製作年代の古いものが多い。

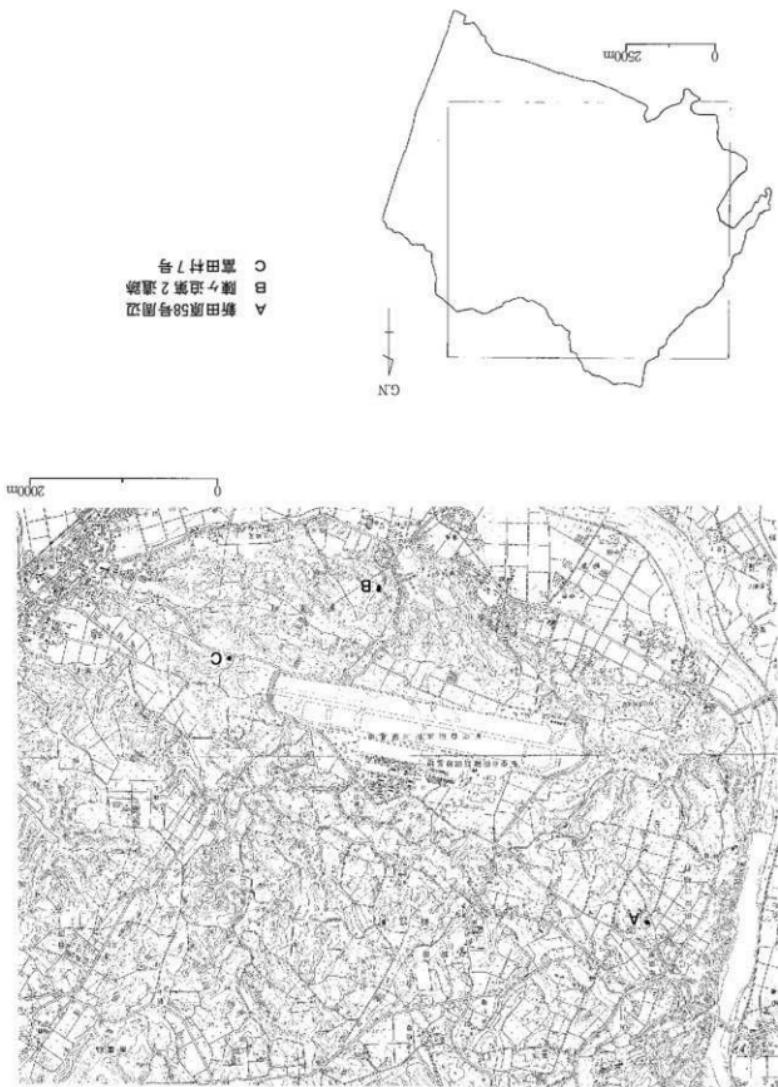
埋蔵文化財は開発行為によって消滅する頻度が高いため、年間を通じて調整・調査を行っている。史跡では国指定新田原古墳群の史跡整備を進行中で、平成9年度から発掘調査を行っている。また町ですすめる総合文化公園整備事業で既存の文化会館のほかに図書館・歴史資料館を建設する予定があり、この歴史資料館（仮称）を中心に古墳群やその他文化財にガイダンスや案内板を設置し、見学や学習に寄与する予定である。

## 3. 埋蔵文化財の調査

昭和50年代に始まった畑地帯のほ場整備にともない埋蔵文化財発掘調査がかなりの面積にわたって行われてきた。これら大規模調査の成果によって、1982年に行った遺跡詳細分布調査における「周知の遺跡」はその数が飛躍的に多くなった。

また、近年の町内における開発行為によって、周知の埋蔵文化財包蔵地外からの遺跡の発見が相次いだ。このため平成16年度から18年度にかけて「第2次遺跡詳細分布調査」を行い、18年度にその成果をまとめた「新富町の埋蔵文化財（改訂版）」を発行した。その結果、新富町内の遺跡数は190ヶ所に及ぶことが判明した。

第1図 平成22年度(2010年)地図



## I 【調査体制】

総括 米良 郁子（新富町教育委員会 教育長）  
後藤 博己（同 生涯学習課 課長）  
有田 辰美（同 生涯学習課 課長補佐 兼 社会体育係長）  
調査・調整 桶渡将太郎（同 生涯学習課 主査：文化財担当）  
調整補助 有馬 義人（同 生涯学習課 係長：文化財担当）  
作業員 杉尾美千子、甲斐直美、坂本貞夫、溝口敦子、清美貴子、本部裕美  
高家武男、橋口哲男

表1 平成22年度発掘調査一覧

	遺跡名	所在地	調査期間	申請者	面積	内容	遺構・時期
1	新田原58号周辺	新田字東俣	11/16～3/31	新富町長	785m <sup>2</sup>	史跡確認	後期の前方後円墳
2	陳ヶ追第2	新田字陳ヶ追	7/26～10/26	新富町長	3,625m <sup>2</sup>	農地改良	古墳時代の集落
3	富田村7号	三納代字南原	12/20～1/11	新富町長	2,068m <sup>2</sup>	史跡確認	円墳

## 4. 文化財啓発活動

生涯学習や学社融合の一環として、町内外から文化財についての講演や見学会、勉強会等の要望が寄せられることが多い。町教委ではこれらの要望に応えるため、文化財の普及啓発活動の一環として下記の事業を行った。

表2 新富町の文化財啓発活動

月日	内 容	講師・担当	対象	人数
8/25	放課後子ども教室「アカウミガメを送ろう」	有田・有馬	小学生	40
1/13～2/13	平成22年度百足塚古墳はにわ展	有馬	一般	

表3 文化財資料貸出状況

期 間	遺跡・資料名	貸出機関名
4/12～6/24	百足塚古墳出土形象埴輪	滋賀県立安土城考古博物館

## II. 陳ヶ迫第2遺跡（2次）の調査

### 1. 位置と調査の経緯

新富町の南部では九州山地を水源とする一つ瀬川によって形成された沖積地が広がる。北部は高度の異なる複数の段丘面からなる洪積台地が広がり、それぞれ北から茶臼原面（標高約100～120m）、三財原面（標高約80～90m）、新田原面（標高約70m）で構成されている。

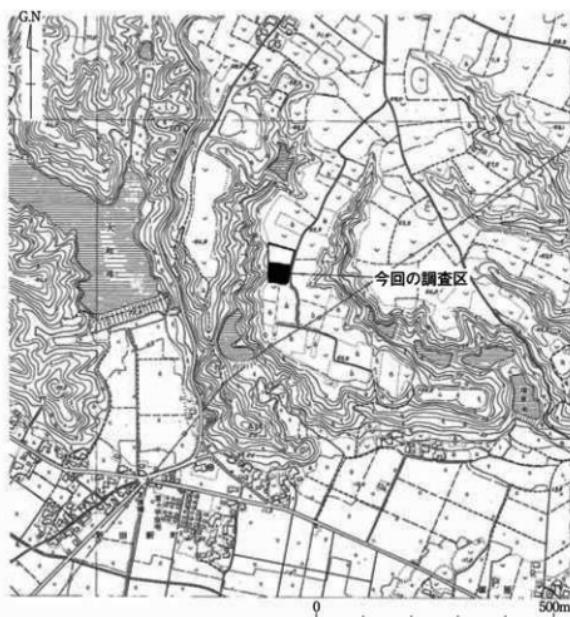
陳ヶ迫第2遺跡はこの新田原面から南に派生した丘陵上に位置し、眼下には一つ瀬川と沖積地を見下すことができる。この付近では北約600mに位置する溜水遺跡や溜水第2遺跡で小規模な調査が行われている以外では、まとまった調査は行われていない。しかし、平成16年度から平成18年度にかけて行われた第2次遺跡詳細分布調査で、広範囲から遺物が表探されており、弥生時代や古墳時代の集落の可能性が指摘されていた。また、中世山城も多数確認されており、一つ瀬川を天然の防御とし、南から攻めてくる敵を迎撃つ重要な地城であったようだ。

平成20年度、地元の耕作者から畑地の土壤改良を行いたいとの連絡が入った。現地を確認したところ、土壤改良予定地の畑から多数の土器片を確認し、遺跡の範囲内であることが確実であった。このため、地権者や耕作者と協議を行い、農閑期である冬以降に本調査を行うことになり、

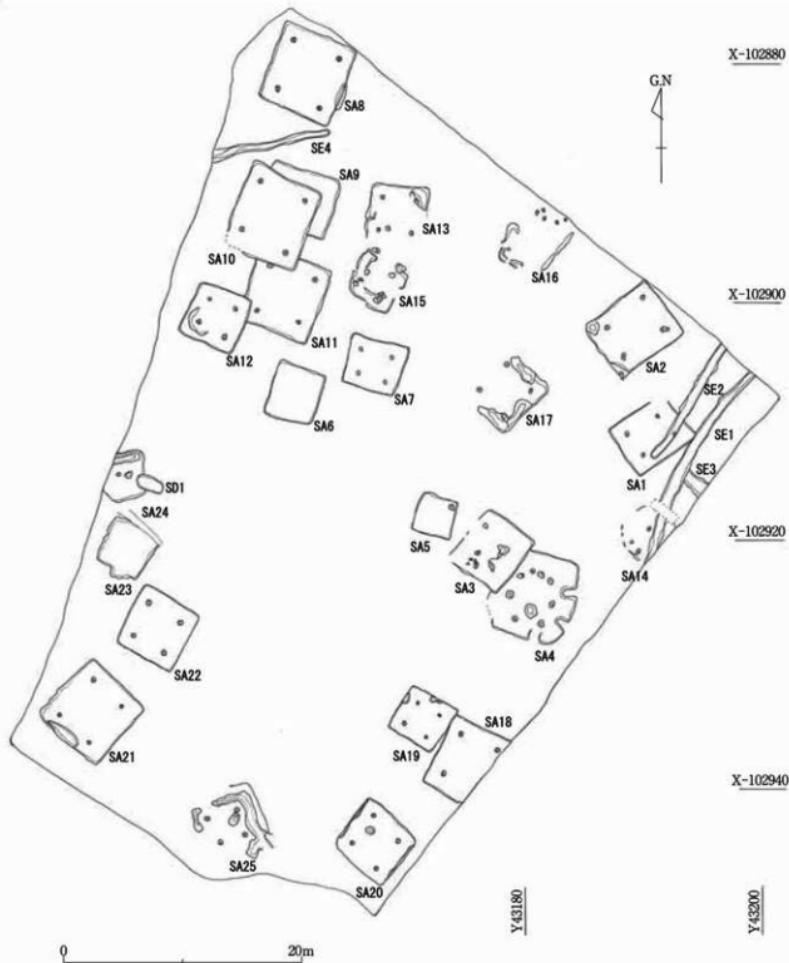
平成21年度はまず調査予定地の北側から重機による表土剥ぎを行い、遺構精査を行った。その結果、予想以上に多数の遺構が検出されたため、2ヵ年度に分けて調査を行うこととし、平成21年度は北側（1次調査）を今年度は南側の調査（2次調査）を行った。

### 2. 調査の方法と概要

今回の土壤改良の予定地は面積3,500m<sup>2</sup>の畑2枚分である。1次調査では北側の調査を行い弥生時代の住居址2、古墳時代の住居址15、溝状遺構4を検出している。今回も同様の遺構の検出が予想された



第2図 陳ヶ迫第2遺跡位置図



第3図 陳ヶ迫第2遺跡遺構配置図

ため、バックホールによる表土剥ぎを行い、その後人力による遺構精査を行った。耕作土は現地表面から30～50cm程の深さで、さらに南北方向にトレンチャーによる溝状の耕作痕が全面に及んでいたが、アカホヤ火山灰層を基準とした遺構検出が可能な状態であった。

真夏の調査で土の乾燥が著しかったため、遺構を確認した場合直ちに石灰によるマーキングを行った。遺構は1／20で実測し図面を作成した。写真は中判カメラで撮影し、35mmとデジタルカメラで補助した。調査区の全景はスカイサーバイに委託した。

### 3. 調査の結果

今回の調査面積は約1,500m<sup>2</sup>である。検出された遺構は古墳時代の堅穴住居址8、時期不明の土坑1で、弥生時代の遺構は検出されなかった。西側では遺構の残存状態は良好であったが、東側では残存状態が悪く、貼り床面まで掘削が及んでいるものもあった。

堅穴住居址は方形プランで4本柱を基本としている。8軒中4軒で埋甕が検出され、SA20では壁帶溝を検出した。出土遺物は現在整理中だが、すべて古墳時代後期に該当すると思われる。

### 4. 小結

今回の調査では古墳時代後期の堅穴住居址8を確認した。1次調査分と合わせると、23軒となり、周辺地形を考慮すると百軒以上にも及ぶ大集落が存在した可能性がある。町内における古墳時代後期の集落としては上菌遺跡や竹瀬C遺跡がある。とくに上菌遺跡は古墳時代中期から中世にかけて330軒以上の住居址が確認されており、そのなかでも古墳時代後期が集落の最盛期である可能性が高い。本町では古墳時代後期になると、この時期としては県内最大級の首長墓系列である祇園原古墳群をはじめ、高塚群集墳や横穴墓、地下式横穴など多様な墓制が存在する。古墳時代後期を検討するうえで重要な地域であり、今後も資料の蓄積と検討を進めたい。

### III. 富田村古墳の確認調査

#### 1. 富田村 7号墳の調査

##### (1) 位置と調査の経緯

県指定富田村古墳とは、昭和19年に旧富田村に所在した古墳の総称である。その分布は大字上富田・三納代・日置にわたり、実際の古墳のグループを捉えてはいない。近年ではその分布の集中を、富田古墳群・三納代古墳群・日置古墳群と大別し、群の中にはさらに支群や単独墳が認められる。

県内の県指定史跡は戦前に指定措置が行われ、地籍上の管理なものが多い。昭和55年に行われた古墳総点検事業によって所在不明な古墳や指定地番の変更、墳丘の崩壊が進んでいる実態が分かっている。

以上のことから、地籍上の指定地番にどのような古墳が所在するのかを確認することは急務といえる。そこで町教育委員会では、平成16年度から「富田村古墳」の所在確認調査を行っている。

今年度は富田村 7号墳の確認調査を行った。7号墳は新田原台地から東に派生した標高65mの丘陵上に位置する。西側には航空自衛隊新田原基地が控え、東側には本町の市街地と日向灘を展望することができる。本古墳から500m東の同一丘陵上には富田村 6号墳（円墳）と弁指古墳（前方後円墳：未指定）が存在するが、7号墳周辺にはほかに古墳の存在は確認できず単独墳の様相を呈している。



1 富田村 7号 2 三納代古墳群太郎兵衛追支群 3 三納代古墳群鎧支群  
5 弁指古墳 6 富田村 1号 7 富田村石墳天神平支群 4 富田村 6号  
8 塚原古墳群

第4図 富田村 7号墳と周辺古墳

7号墳周辺では、新田原基地の第2滑走路設置にともなう障害エリアの拡大にともない、九州防衛局が周辺用地の買収をすすめており、平成22年度当該地の買収を計画したところ、富田村7号墳が含まれていることが判明した。

生涯学習課では指定地番であることを九州防衛局に通知し、全筆指定であることを伝え、指定地であっても買収することができる旨を九州防衛局に伝えたが、同局としてはその後建物などを建てない場合にあっても、「指定措置」などのいわゆる網がけがなされている土地は買収できないという。

そのため、町では県文化財課と協議し、昭和19年の指定が全筆にわたっていることから、少なくとも古墳の範囲を確認して、それ以外の土地を指定解除する方向で調整できないか検討することとなった。

## 2. 調査の方法

調査にあたってまず、指定地全面に地中レーダー探査を行い、7号墳周溝の残存状態の確認と指定地番内の遺構確認を行った。その結果、周溝と思われる反応のほか、遺構の可能性がある複数の反応があることが判明した。そのため7号墳に3ヵ所のトレンチを設定し、周溝の遺存状態を確認するとともに、遺構の可能性がある地点についても、その内容を把握するためのトレンチを設定した。

## 3. 調査の内容

### (1) 地中レーダー探査

古墳周辺および調査区の北東側に遺構の可能性がある反応があった。古墳周辺の反応は周溝の可能性がある。また、それ以外についても遺構の性格を把握するためにトレンチによる確認調査を実施した。

### (2) トレンチ調査

#### ① 1トレンチ

7号墳の西側に設置。表土を掘り下げた結果、アカホヤ火山灰層が残存していたため、この面で遺構精査を行い、溝状遺構3を検出した。このうち2条はトレンチャーによる掘削であることが確認できた。墳丘に近い位置から検出されたものは、埋土の状況などから古墳周溝である可能性が高い。ただし、外側の立ち上がりはトレンチャーによって掘削されていたため、規模は判然としない。

#### ②・3トレンチ

周溝を確認するために古墳の周囲に設置したが、アカホヤ火山灰層は既に掘削されており、周溝を確認することはできなかった。

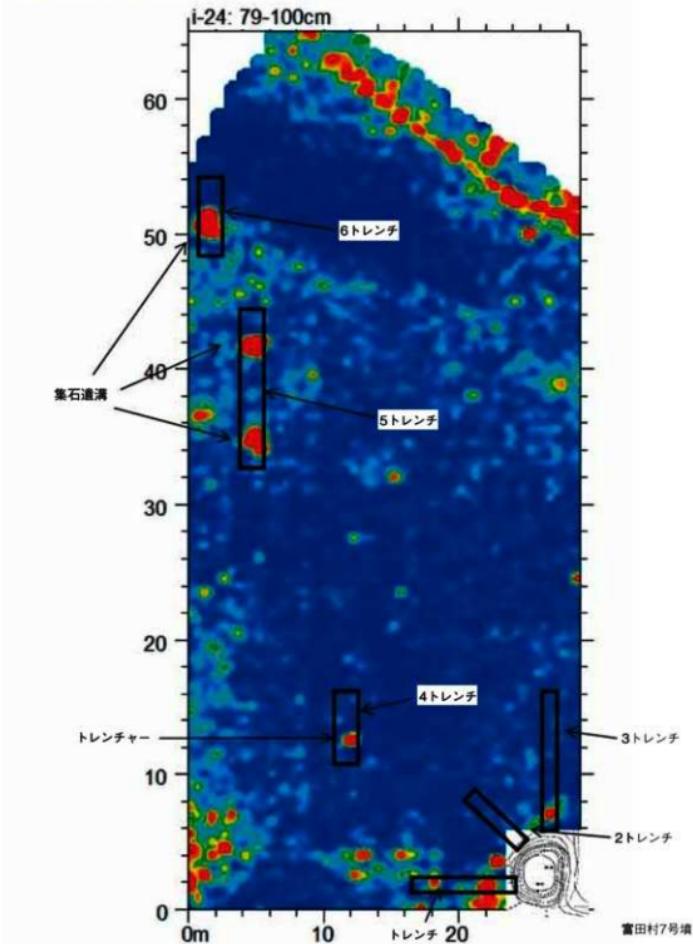
#### ③4・5・6トレンチ

地中レーダーによって反応があった箇所に設置した。4トレンチでは機械耕作に伴う土抗を検出した。また、5トレンチと6トレンチでは集石遺構を合計3基検出した。遺物は出土しなかつたが層位から縄文時代早期以前と思われる。

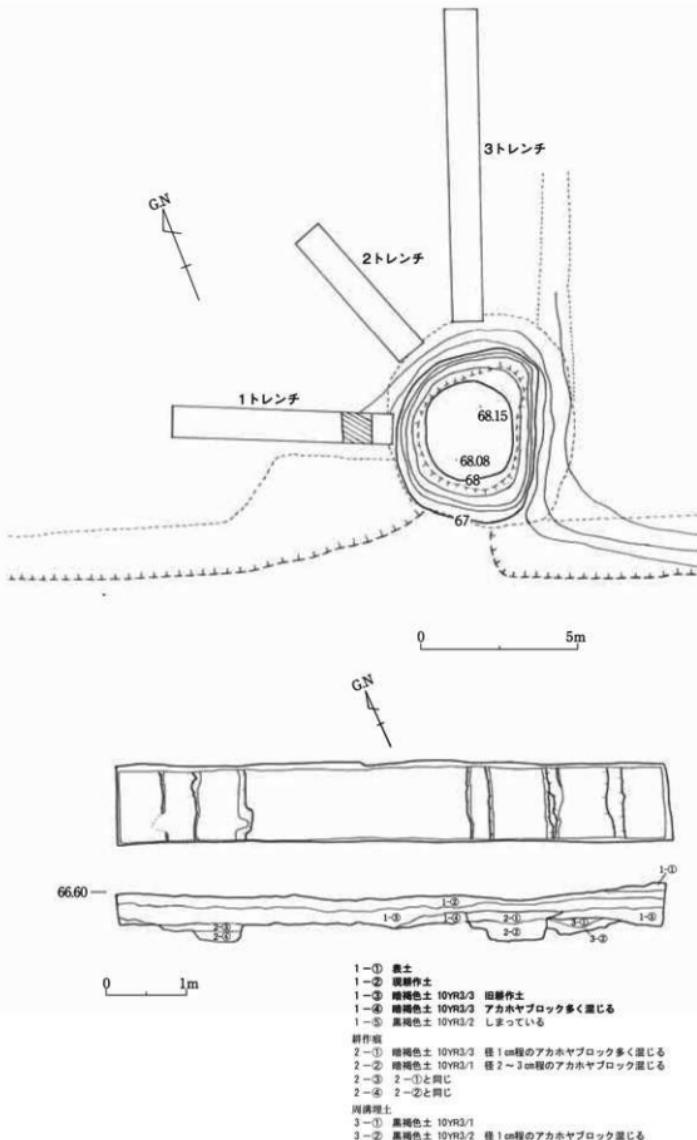
### (3) 測量調査

墳丘は周囲がすべて後世の改変によって掘削され、特に東側は大きく削られている。

Shintomi-Tondamura#7  
500MHz GPR-Survey



第5図 富田村7号墳地中レーダー探査状況



第6図 富田村7号墳（上）・1トレンチ（下）

現墳丘長は約5m、高さ1.4mだが、本来は径10m程度の円墳だったと推測される。昭和19年の指定時段階でのデータでも基底径3.3mとなっていることから、この時点で既に墳丘の掘削は進んでいたようだ。墳頂の標高は約68mで、丘陵下の水田との標高差は60mである。盗掘孔は確認できない。墳丘には挙大の礫が観察できるが葺石ではない。周囲を含めて遺物は確認されておらず時期は不明である。

#### 4 小結

今回の調査では1トレンチで周溝の立ち上がりが確認できたが、2・3トレンチでは確認することができなかった。周溝を含めた古墳全体の規模を確定することができなかつたが、レーダー探査の結果や、墳丘規模から現在の墳端から5m程に収まると思われる。また、それ以外古墳時代に伴う遺構は存在しなかつた。

## IV.まとめ

今年度は陳ヶ迫第2遺跡と富田村7号の調査を行った。陳ヶ迫第2遺跡は昨年度に引き続き調査を行い、これまで古墳時代の住居址23、弥生時代の住居址2を検出した。古墳時代の住居は切り合いが認められるものの、古墳時代後期に限定でき、埋甕をもつものも多い。竈の存在が伺える遺物も出土しており、埋甕から竈への変遷を考えるうえで興味深い資料となりそうだ。今後も同様の開発行為に留意したい。

富田村7号では周溝の検出は一部にとどまったが、墳丘測量と地中レーダー探査を実施することができた。地中レーダー探査では古墳時代の遺構を確認することはできなかったが集石遺構を検出することができた。遺物は出土しなかったが層位から旧石器時代まで遡る可能性もある。

富田村古墳については今後とも測量や試掘調査を行い、墳丘の現状や地番照合作業を継続する予定である。



1. 陳ヶ迫第2遺跡南東側から



1. 陳ヶ迫第2遺跡真上から



1. SA18



2. SA19



3. SA22



1. SA23



2. SA23埋甕出土状況



3. SA24



1. 富田村 7号墳



2. 地中レーダー探査  
作業風景



3. 作業風景



1. 1トレンチ完掘



2. 周溝検出状況

## 報告書抄録

ふりがな	ちょうないゅせき					
書名	町内遺跡27					
副書名	平成22年度 町内遺跡発掘調査概要報告書					
卷次	27					
シリーズ名	新富町文化財調査報告書					
シリーズ番号	第59集					
編著者名	樋渡将太郎					
編集機関	新富町教育委員会					
所在地	宮崎県児湯郡新富町大字上富田7491番地					
発行年月日	2011年3月31日					
所収遺跡・地区名	所 在 地	コード		調査期間	調査面積	調査原因
		市	遺跡番号			
りんがさこだいにいせき 陳ヶ迫第2遺跡	おおあざにゆうたあざらんがさこ 大字新田字陳ヶ迫1356-2	47	2032	100726～101026	3,625m <sup>2</sup>	農地改良
とんだわらななごうふん 富田村7号墳	おおあざみなしらあざみなみばる 大字三納代字南原	47	3001	101220～110111	2,068m <sup>2</sup>	史跡確認
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
陳ヶ迫第2遺跡	集落	古墳・弥生	堅穴住居址	須恵器・土師器	古墳時代後期の集落	
富田村7号墳	古墳	古墳	円墳・集石	—	—	

新富町文化財調査報告書 第59集

### 町 内 遺 跡 27

発行年月日 2011年3月  
 発行 宮崎県新富町教育委員会  
 印刷 株印刷センタークロダ